平成 28 年度　第２回　都市計画サロン　報告

日時：平成 28 年 7 月 2 日（土）
演題：「熊本地震で感じたこと・感じていること」
講師：田北雅裕 氏
　　九州大学大学院人間環境学研究院　専任講師

講演内容：

第２回都市計画サロンは田北先生をお招きし，今回の熊本地震に関する西原村でのご活動を中心にお話しいただいた．内容は以下のとおり．

もともと，熊本県杖立温泉街を中心に，小国町や南阿蘇村のまちづくりにも関わっていた．熊本地震の後に被災地を俯瞰してみたところ，益城町や南阿蘇村，熊本市のボランティアセンターは立ち上がっていたが，西原村は全世帯の 6 割以上の建物が半壊以上と被害が甚大にも関わらず，ボランティアセンターが立ち上がっていなかった．そこで西原村へ支援に向かうことに決め,「西原村災害ボランティアセンター」の運営について，4 月 29 日のボランティア受け入れの直前から支援していくことになった．西原村のボランティアセンターの特徴は,「サテライト方式」というもので，3 地区にサテライト拠点をつくり，そこでボランティアを受け付け，支援を受けたい被災者のもとに派遣するという体制である．また，各サテライトには，地域住民と顔見知りの社会福祉協議会の職員を配置することで，被災者ひとりひとりのニーズにあったボランティアを派遣する体制を整えることができた．被災者とボランティアとの間に顔見知りの人が入ることで，被災者の抵抗感が和らぐこととなり，うまく機能していったと考えられる．また，災害ボランティアセンターとは別に「農業振興ボランティアセンター」が設立されたのも西原村の特徴であり，それぞれ facebook を活用して運営している．

このように，地震後の初動期から被災地に入り，現場の動きに合わせて動きつつ，適宜アドバイス等を行ってきている．西原村災害ボランティアセンターの運営を支えてきた方々を総括すると，阪神や中越など，以前大きな災害があった地域から来られた方々が多かったのは印象的だった．それに対して，運営に携わる九州の人たちが少なかったのが大変残念だった．初期に現地に入るのはかえって迷惑ではという意識があったり，余震が続く状況も影響したとは思うが，九州の人たちも，学ぶ機会として初期の災害復旧に関する経験をしておくべきだったと思っている．

ボランティアセンターの運営支援と平行して，専門家として「情報デザイン支援」も行ってきた．ボランティアが現地に入る前に役立つ交通情報や注意する点などをまとめた「災害ボランティアに行く前に」というウェブページや被災地へのルートマップなどを作成して情報を発信したことで，現場の混乱を回避することに繋がっている．これらは現場に行かなくてもできる支援であり，工夫すれば支援の方法はいくらでもある．現在は，復興に向けて学生のボランティア派遣や，地元の復興の動きをサポートしている．

さいごに,「熊本地震：課題・アイディアメモ」として，現場で直接携わったからこそ見出せる課題やアイディアをご紹介いただいた．

意見交換：

意見交換では，地震後の初動期の支援のあり方や各地のボランティアセンターの情報共有のあり方などについて質問があった．また，学会としていかに現地に貢献するか活発な議論が行われた．

（文責：九州大学　箕浦永子）